

2005年度質量分析学会同位体比部会プログラム(11/6案)

(2005年11月9日-11月11日、高知海洋コアセンターおよびホリデイイン高知)

M: 講演時間15分 + 質疑応答5分の計20分

M: 講演時間25分 + 質疑応答5分の計30分

S: 学術講演、特別講演

一鈴: 講演終了3分前、二鈴: 講演終了時間、三鈴: 演者交代

11月9日(水)

(場所: 高知海洋コアセンター、セミナー室&エントランスホール)

13:00-13:50

受付@高知コアセンター(Registration@Kochi Core Center)

13:50-14:00

Guidance

座長: 鈴木達也、浅原良浩

14:00-14:30

01N01

アコおよびアンミン錯体における同位体分別

垣内正久(学習院大理)

14:30-14:50

01M02

カラム分離試料中のホウ素同位体比測定

苑田晃成、榎田洋司、廣津孝弘(産総研・健康セ)

14:50-15:20

01N03

ストロンチウム・セリウム・ネオジムの同位体分別と安定同位体地球化学への応用

大野 剛、平田岳史

15:20-15:40

01M04

高分解能マルチコレクタICPMS, Nu Plasma HRを用いた応用実例

服部道成(セキテクノロン)・高久雄一(環境科学技術研究所)

15:40-16:00

01M05

加速器質量分析法を用いた<sup>32</sup>Si分析法開発と海洋化学トレーサーとしての利用可能性

本郷やよい<sup>1)</sup>, 藤村匡胤<sup>2)</sup>, 永井尚生<sup>3)</sup>, 阿瀬 貴博<sup>4)</sup>, 松村 宏<sup>5)</sup>, 松崎 浩之<sup>6)</sup>: 1)理化学研究所 先端技術開発支援センター, 2)日本大学文理学部, 3)日本大学大学院総合基礎科学研究科, 4)東京大学理学系研究科, 5)高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター, 6)東京大学タンデム加速器研究施設(MALT)

16:00-16:40

short presentation for posters(1min/person)

16:40-18:30

ポスターセッション(poster session)

18:30-20:00

ホリデイイン高知へ移動、夕食(Dinner)

座長: 斎藤和男(ホリデイイン高知、ホール桂月)

20:00-20:40

01Y06

南極ドームFuji基地水槽中ガラス質球粒はやっぱり地球物質だった?

福岡 孝昭(立正大) 田澤 雄二(京大) 星 有哉(立正大)

11月10日(木)

(場所: ホリデイイン高知、ホール桂月)

座長: 三浦弥生

09:00-09:20

02M01

ヘリウムの枯渇度から計るウェッジマントルの成熟度

山本順司、竹村恵二(京大・地熱研)

09:20-09:50

02N02

極微量同位体分析時に予想される同位体比の統計的諸性質について

大澤崇人(原研・微量分析グループ)

09:50-10:10

02M03

New Perspectives in Noble Gas Measurement

John M. Saxton (Nu Instruments Ltd.)

休憩(refresh time for 10 min)

座長: 田中剛

10:20-10:40

02M04

ピルバラのヘマタイト化したグリーンストーン: 27.6億年前以前に地球表層環境はすでに酸化的であった?

鈴木勝彦(IFREE, JAMSTEC), 加藤泰浩(東大・院・工学系), 中村謙太郎(IFREE, JAMSTEC), 根建心具(鹿児島大・理・物理), 日下部実(岡山大・地球物質科学研究センター), Hickman A. H. (西オーストラリア地調), Bevacqua David C., 大本洋(ペンシルバニア州立大)

10:40-11:00

02M05

隕石と地球試料のタングステン同位体組成

入澤啓太、平田岳史

11:00-11:50

02S06

惑星物質の微量元素および同位体の精密分析法の開発研究を手がけて

中村昇(神戸大・自然)

11:50-13:00

昼食(Lunch)

- 座長: 長尾敬介
- 13:00-13:30 02N07 火山ガスプルーム中の一酸化炭素の安定同位体組成を利用した噴気温度推定の可能性について  
角皆 潤・館脇裕之・小松大祐・井尻暁・中川書子(北海道大学大学院理学研究科)
- 13:30-13:50 02M08 Nano-SIMSを用いたシラスウナギの耳石分析  
佐野有司、高畑直人、白井厚太郎、天川裕史、黒木真理、塚本勝巳(東大海洋研)
- 13:50-14:40 02S09 支離滅裂の35年: ニオス湖とTFL  
日下部 実(岡山大学・地球研)
- 休憩(refresh time for 10 min)
- 座長: 谷水雅治
- 14:50-15:10 02M10 人間の吐息の一日における炭素同位体比変動について  
松田准一(大阪大)、丸岡照幸(筑波大)
- 15:10-15:30 02M11 シリア遺跡の環境放射能変動調査計画とその意義ー堆積学を基盤としてー  
星野光雄・ 田中剛・中村俊夫・吉田英一・東田和弘・桂田祐介
- 15:30-16:00 02N12 鉛同位体比から見た考古学 - 中国の青銅器時代 -  
平尾良光(別府大学)
- 休憩(refresh time for 20 min)
- 座長: 兼岡一郎、下田玄
- 16:20-16:50 02N13 カナダ アカスタ片麻岩体中ジルコンのU-Pb年代及びLu-Hf同位体組成から読み取る初期地殻成長  
飯塚毅 §, 堀江憲路†, 小宮剛 §, 丸山茂徳 §, 平田岳史 §, 日高洋† (§ 東工大・地惑, † 広大・地惑)
- 16:50-17:10 02M14 炭酸塩岩の鉛ー鉛年代  
可児智美(熊大・理)
- 17:10-17:50 02S15 自称 日本海作戦 その後  
能田成(熊大・理)
- 休憩(refresh time for 10 min)
- 座長: 下田 玄
- 18:00-18:30 02N16 超背弧地域に産する新生代玄武岩類の成因: パタゴニア北部, ソムンクラ 台地を例に  
折橋裕二(東大・地震研)・元木昭寿(リオデジャネイロ州立大・地質)・Muguel Haller(パタゴニア国立大・理)・平田大二(神奈川県博・生命の星・地球館)・角野浩史(東大・理)・岩森 光(東大・理)・三部賢治(東大・地震研)・長尾敬介(東大・理)・安間 了(つくば大・自然)
- 18:30-18:50 02M18 フィリピン海プレートのスラブメルティング  
柴田知之(京大・地熱), 伊藤順一(産総研・地調), 氏家治(富山大・理), 竹村恵二(京大・地熱)
- 18:50-21:00 懇親会(ホール高砂)

**11月11日(金)**

(場所: 高知海洋コアセンター、セミナー室)

- 座長: 長尾敬介
- 09:20-10:20 03S01 質量分析は今が旬. イオン化法の基礎と最前線  
荒川隆一(関西大工学部)
- 座長: 鈴木勝彦
- 10:20-10:40 03M02 EA/IRMSを用いた窒素・炭素安定同位体比測定の微量化  
小川奈々子・北里洋・ 大河内直彦(JAMSTEC-IFREE)
- 10:40-11:00 03M03 ICP-MSインターフェイスでのイオンの挙動の簡単な考察  
谷水雅治(海洋機構高知コア研究所)
- 11:00-11:30 03N04 レーザー試料導入法の開発  
平田岳史(東工大・理)
- 11:30-12:00 ビジネスミーティング

13時よりコアセンター内のラボツアーの予定

2005年度質量分析学会同位体比部会ポスター発表プログラム(11/6案)  
(2005年11月9日-11月11日、高知海洋コアセンターおよびホリデイイン高知)

11/9日16:00-16:40までショートプレゼンテーションを行います。  
一人一分間でポスター内容をご紹介ください。  
A4サイズのOHPシートもしくはプリント用紙をご用意ください(プリント用紙の直接投影が可能です)。  
16:40-18:00までをコアタイムとします。  
18:30までにはバスでホリデイイン高知に移動したいと思います。  
学生のポスター番号は01P01~01P12、一般は01P21~01P41です(01P13~01P20は欠番)。

#### ポスター発表(学生: 01P01-01P12)

- 01P01 On-line Cr還元法による水のD/H測定自作による導入にあたっての実用的な要点  
板井啓明、日下部実(岡山大・地球研)
- 01P02 An attempt to make analyses of noble gases in garnet  
Gyorgy Czuppon, 工藤康晴、松本卓也、松田准一(大阪大・理)
- 01P03 山形大学の希ガス分析用質量分析計VG5400の立ち上げの現状について  
竹島誠(山形大学理工学研究科)
- 01P04 高圧下における珪酸塩メルトへのAr溶解度測定  
宮川千絵、松田准一(大阪大・理学研究科)、丹羽健、八木健彦、宮島延吉(東京大・物性研究所)
- 01P05 TIMSによるSm安定同位体測定 -double spike法を用いて-  
若木重行、田中剛(名大・環境)
- 01P06 南大洋堆積物中のSr、Nd同位体比を用いた古環境復元 ~ 逐次溶解法を用いた陸源碎屑粒子の分離の検討 ~  
竹内ふみ、浅原良浩(名古屋大学)
- 01P07 南ポリネシア 海洋島玄武岩のPb同位体比  
賞雅朝子(東大・地震研)、中井俊一(東大・地震研)、羽生毅(JAMSTEC)
- 01P08 ハフニウムの分離抽出法および表面電離型質量分析計による同位体比分析法の検討  
渡辺慶太郎、浅原良浩(名大・環境)
- 01P09 フィンランド、シリンヤルウィ産太古代カーボナタイトの希ガス同位体研究  
工藤康晴、松本拓也、松田准一(大阪大・理)、下田玄(産総研)
- 01P10 マーチソン隕石のfloating-fractionと新たに測定したbulkの同位体比  
松尾行浩、松田准一、西村智佳子(阪大・宇宙地球)
- 01P11 カルシウム高精度同位体測定法の開発  
菅彰信、平田岳史(東工大・地惑)
- 01P12 チリ・タイタオ半島花崗岩中のSr同位体比測定にむけて  
昆 慶明、小宮 剛、平田 岳史、丸山 茂徳(東工大・地球惑星)

ポスター発表(一般: 01P21-01P39)

- 01P21 イオン交換法による窒素同位体の高濃縮  
野村雅夫、丁興成、鈴木達也、藤井靖彦(東工大原子炉研)
- 01P22 アルカリ金属、アルカリ土類金属、希土類元素の簡便な分離法の開発  
鈴木達也、佐藤真由美、藤井靖彦(東工大・原子炉研)
- 01P23 オートサンプラー付き連続フロー型質量分析計による二酸化炭素ガスの炭素同位体比分析  
丸岡照幸(筑波大・生命環境)、柴田智郎(北海道立地質研究所)、松尾行浩、松田准一(大阪大学・理)
- 01P24 島弧火山岩のハフニウム同位体比  
羽生 毅(JAMSTEC,IFREE)
- 01P25 希ガス質量分析計への四重極レンズイオン源搭載の試み~その2  
角野浩史、長尾敬介(東大院理・地殻化学)
- 01P26 安山岩石基および石基中鉱物のアルゴン同位体比と年代との関係  
佐藤佳子(JAMSTEC,IFREE5)、田村肇(JAMSTEC,高知コア研)、巽好幸(JAMSTEC,IFREE)
- 01P27 隕石I-Xe年代測定の現況報告  
海老澤紀子、角野浩史、長尾敬介(東大・地殻化学)
- 01P28 韓国ウルルン島火山岩類の主要・微量元素組成及びSr,Nd同位体組成  
平原 由香(JAMSTEC/IFREE), 周藤 賢治(新潟大・理), 石本 博之(新潟大院・自然研), 川畑 博  
(JAMSTEC/IFREE), 平元 加奈子(新潟大院・自然研), 宋 錫煥, 李 鉉具
- 01P29 バイオマス燃焼過程におけるCO<sub>2</sub>-CO-CH<sub>4</sub>間の炭素同位体分別  
中川書子・角皆潤・小松大祐(北大・院理)山田桂大・奈良英樹・小川光輝・吉田尚弘(東工大・総理工)須  
藤重人・米村正一郎・鶴田治雄(農環研)
- 01P30 Noble gas in stalagmite inclusion fluids: Preliminary Results  
松本拓也(阪大) Daniele. L. Pinti(GEOTOP, Canada), Dominique Genty(CNRS, France)
- 01P31 連続フロー型質量分析計を用いた海洋溶存炭化水素類の炭素安定同位体比定量法の開発  
小松大祐 古用啓介 山口潤子 中川書子 角皆潤
- 01P32 全有機体炭素計を用いた連続フロー型質量分析システムによる海底堆積物間隙水中の溶存有機体炭素の全炭素同位体測定  
井尻 暁、角皆 潤、中川 書子(北大・院・理)
- 01P33 モナザイトの年代マッピング  
仙田量子・鈴木和博・加藤丈典・鈴木里子・Monika A.Kusiak(名大・年測)
- 01P34 深層流体(地下水・熱水・温泉ガス)の希ガス元素分別から推定する地下水溶存ガス成分の挙動  
森川徳敏、大和田道子、仲間純子、風早康平(産総研・深部地質センター)
- 01P35 火星の地殻のREE組成  
下田玄(産総研)、池田幸雄(茨城大理)
- 01P36 ICP-MSによる環境試料中の鉛同位体比分析の現状  
西村幸一(東北ニュークリア)、服部道成(セキテクノロン)、林 匠馬(東北ニュークリア)、高久雄一(環境  
科学技術研究所)
- 01P37 オホーツク海の海洋コア中に産する底生有孔虫の炭素同位体比の負異常  
池原実(高知大・海洋コア)、豊福高志(JAMSTEC/IFREE)、坂本竜彦(JAMSTEC/IFREE)
- 01P38 The chemical Th-U-total Pb Isochron Ages of Monazites from metamorphic rocks of the Bohemian Massif.  
Monika A. Kusiak & Kazuhiro Suzuki; Nagoya University Center for Chronological Research
- 01P39 ナノシムスを用いた黄鉄鉱の局所硫黄同位体分析  
西澤 学、佐野有司(東大海洋研)
- 01P40 炭素・鉛同位体組成が示す海洋無酸素イベントと大規模火山活動の関連  
黒田潤一郎、谷水雅治、小川奈々子、北里洋、大河内直彦
- 01P41 環境指標となるサンゴ骨格中の化学成分におよぼすkinetic effectの影響  
井上麻夕里(東北大)、鈴木 淳(産総研)、日比野浩平(自然環境研究センター)、野原昌人(産総研)、  
川幡穂高(東大、産総研)